

令和4年度 熊本大学2次試験前期日程(数学問題)120分
 医学部医学科 令和4年2月25日

問題 1 2 3 4

1 a を実数とし、座標空間の点 $P_1(a, 0, 0)$, $P_2(a+1, 0, 0)$, $Q(0, 1, 0)$, $R(0, 0, 3)$ を考える。 G_1 , G_2 をそれぞれ $\triangle P_1QR$, $\triangle P_2QR$ の重心とする。以下の問いに答えよ。

- (1) P_1 , P_2 を通る直線と、 G_1 , G_2 を通る直線は平行であることを示せ。
- (2) 四角形 $P_1P_2G_2G_1$ の面積を求めよ。
- (3) 四角形 $P_1P_2G_2G_1$ を底面とする四角錐 $Q-P_1P_2G_2G_1$ の体積を求めよ。

2 関数 $f(x) = \sqrt{1 + \sin^2 \frac{\pi x}{2}}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) $f(x)$ ($0 \leq x \leq 1$) の最大値を求めよ。
- (2) $0 \leq x \leq 1$ において、 $f(x) \geq \sqrt{2}x$ となることを示せ。
- (3) 数列 $\{a_n\}$ を

$$a_n = \int_0^1 \{f(x)\}^n dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定める。 $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n}$ の値を求めよ。ただし、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+1)}{n} = 0$ を用いてよい。

3 p を正の実数とする。曲線 $y = \sin x$ ($x > 0$) の接線で点 $(-p, 0)$ を通るものをすべて考え、それらの接点の x 座標を小さい方から順に $a_1, a_2, \dots, a_n, \dots$ とする。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して、 $\tan a_n = a_n + p$ が成り立つことを示せ。
- (2) $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して、 $a_{n+1} - a_n > \pi$ が成り立つことを示せ。
- (3) $a_1 = \frac{\pi}{3}$ のとき、 $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して、 $\tan a_{n+1} > n\pi + \sqrt{3}$ が成り立つことを示せ。

4 以下の問いに答えよ。

- (1) $m \leq n$ であって、 $mn + 2 = {}_{m+n}C_m$ を満たす正の整数の組 (m, n) を1つ求めよ。
- (2) $m \leq n$ であって、 $mn + 2 = {}_{m+n}C_m$ を満たす正の整数の組 (m, n) は、(1) で求めた組に限ることを示せ。

解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad P_1(a, 0, 0), P_2(a+1, 0, 0) \text{ より } \overrightarrow{P_1P_2} = (1, 0, 0)$$

$\triangle P_1QR, \triangle P_2QR$ のそれぞれの重心 G_1, G_2 は

$$G_1\left(\frac{a}{3}, \frac{1}{3}, 1\right), G_2\left(\frac{a+1}{3}, \frac{1}{3}, 1\right) \quad \text{ゆえに } \overrightarrow{G_1G_2} = \left(\frac{1}{3}, 0, 0\right)$$

$$\text{したがって } \overrightarrow{G_1G_2} = \frac{1}{3}\overrightarrow{P_1P_2}$$

よって, P_1, P_2 を通る直線と, G_1, G_2 を通る直線は平行である.

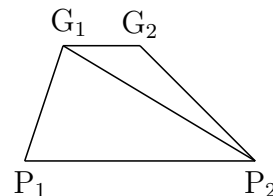
$$(2) \quad \overrightarrow{P_1P_2} = (1, 0, 0), \overrightarrow{P_1G_1} = \left(-\frac{2a}{3}, \frac{1}{3}, 1\right) \text{ より}$$

$$|\overrightarrow{P_1P_2}|^2 = 1, \quad |\overrightarrow{P_1G_1}|^2 = \frac{4a^2}{9} + \frac{10}{9}, \quad \overrightarrow{P_1P_2} \cdot \overrightarrow{P_1G_1} = -\frac{2a}{3}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \Delta P_1P_2G_1 &= \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{P_1P_2}|^2 |\overrightarrow{P_1G_1}|^2 - (\overrightarrow{P_1P_2} \cdot \overrightarrow{P_1G_1})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{1 \left(\frac{4a^2}{9} + \frac{10}{9} \right) - \left(-\frac{2a}{3} \right)^2} = \frac{\sqrt{10}}{6} \end{aligned}$$

求める四角形 $P_1P_2G_2G_1$ の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \Delta P_1P_2G_1 + \Delta G_1G_2P_2 \\ &= \Delta P_1P_2G_1 + \frac{1}{3} \Delta P_1P_2G_1 \\ &= \frac{4}{3} \Delta P_1P_2G_1 = \frac{4}{3} \cdot \frac{\sqrt{10}}{6} = \frac{2\sqrt{10}}{9} \end{aligned}$$



$$(3) \quad \overrightarrow{P_1R} = (-a, 0, 3). \quad \overrightarrow{P_1P_2} \text{ および } \overrightarrow{P_1G_1} \text{ に垂直な単位ベクトルの 1 つを}$$

$$\vec{n} = \frac{1}{\sqrt{10}}(0, -3, 1)$$

とする. 点 R から四角形 $P_1P_2G_1G_2$ に引いた垂線の長さ h は

$$h = |\overrightarrow{P_1R} \cdot \vec{n}| = \frac{3}{\sqrt{10}}$$

よって, 求める立体の体積を V とすると

$$V = \frac{1}{3}Sh = \frac{1}{3} \cdot \frac{2\sqrt{10}}{9} \cdot \frac{3}{\sqrt{10}} = \frac{2}{9}$$

■

2 (1) $f(x)$ ($0 \leq x \leq 1$) は単調増加であるから、最大値は $f(1) = \sqrt{2}$

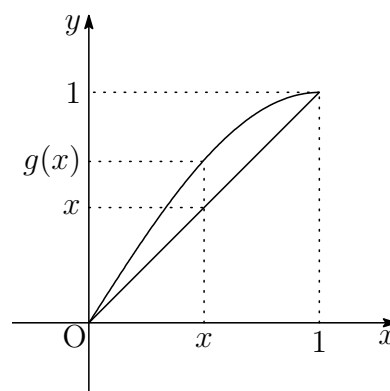
(2) $g(x) = \sin \frac{\pi x}{2}$ とおく ($0 \leq x \leq 1$).

曲線 $y = g(x)$ は上に凸であり、2点 $(0, 0)$, $(1, 1)$ を結ぶ線分

$$y = x \quad (0 \leq x \leq 1)$$

の下側になくから

$$g(x) \geq x \geq 0 \quad (0 \leq x \leq 1)$$



が成り立つ。したがって、 $0 \leq x \leq 1$ において

$$\begin{aligned} f(x)^2 - 2x^2 &= 1 + \sin^2 \frac{\pi x}{2} - 2x^2 \\ &= 1 - x^2 + g(x)^2 - x^2 \geq 0 \end{aligned}$$

$f(x) > 0$ であるから $f(x) \geq \sqrt{2}x$ ($0 \leq x \leq 1$)

(3) (1), (2) の結果から $\sqrt{2}x \leq f(x) \leq \sqrt{2}$ ($0 \leq x \leq 1$)

$$\int_0^1 (\sqrt{2}x)^n dx \leq \int_0^1 \{f(x)\}^n dx \leq \int_0^1 (\sqrt{2})^n dx$$

したがって $\frac{(\sqrt{2})^n}{n+1} \leq a_n \leq (\sqrt{2})^n$ ゆえに $\frac{\sqrt{2}}{\sqrt[n]{n+1}} \leq \sqrt[n]{a_n} \leq \sqrt{2} \dots (*)$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \log \sqrt[n]{n+1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+1)}{n} = 0$ より $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{n+1} = 1 \dots (**)$

(*), (**) から、はさみうちの原理により $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n} = \sqrt{2}$ ■

- 3** (1) $y = \sin x$ を微分すると $y' = \cos x$
 曲線 $y = \sin x$ 上の点 $(a_n, \sin a_n)$ における接線の方程式は

$$y - \sin a_n = (x - a_n) \cos a_n$$

これが点 $(-p, 0)$ を通るから、 $\cos a_n \neq 0$ に注意して

$$-\sin a_n = (-p - a_n) \cos a_n \quad \text{よって} \quad \tan a_n = a_n + p$$

- (2) $f(x) = \tan x - x$ とおくと $f'(x) = \frac{1}{\cos^2 x} - 1 = \tan^2 x \geq 0$
 a_n は方程式 $f(x) = p$ の解である ($p > 0$). $f(x)$ は単調増加であり、

$$f((n-1)\pi) = -(n-1) \leq 0, \quad \lim_{x \rightarrow \frac{2n-1}{2}\pi-0} f(x) = \infty$$

であるから、开区間 $I_n = \left((n-1)\pi, \frac{2n-1}{2}\pi \right)$ に方程式 $f(x) = p$ の解 a_n が唯一存在する. $a_n \in I_n, a_{n+1} \in I_{n+1}$ より

$$a_{n+1} - a_n > 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$f(a_n) = f(a_{n+1})$ であるから

$$\tan a_n - a_n = \tan a_{n+1} - a_{n+1} \quad \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より} \quad \tan a_{n+1} - \tan a_n = a_{n+1} - a_n > 0$$

$\tan a_n = \tan(a_n + \pi)$ であるから

$$\tan(a_n + \pi) < \tan a_{n+1}$$

このとき、 $a_n + \pi \in I_{n+1}, a_{n+1} \in I_{n+1}$ に注意して

$$a_n + \pi < a_{n+1} \quad \text{よって} \quad a_{n+1} - a_n > \pi$$

- (3) $\textcircled{2}$ から、 $a_{n+1} - a_n = \tan a_{n+1} - \tan a_n$. これを (2) の結果に代入すると

$$\tan a_{n+1} - \tan a_n > \pi$$

$$\text{したがって} \quad \sum_{k=1}^n (\tan a_{k+1} - \tan a_k) > \sum_{k=1}^n \pi$$

$$a_1 = \frac{\pi}{3} \text{ より} \quad \tan a_{n+1} - \tan \frac{\pi}{3} > n\pi \quad \text{よって} \quad \tan a_{n+1} > n\pi + \sqrt{3} \quad \blacksquare$$

4 (1) $f(m, n) = {}_{m+n}C_m - mn - 2$ ($m \leq n$) とおくと

$$f(1, n) = (1+n) - 1 \cdot n - 2 = -1$$

$$f(2, n) = \frac{1}{2}(n+2)(n+1) - 2n - 2 = \frac{1}{2}(n+1)(n-2)$$

$f(m, n) = 0$ を満たす正の整数の組 (m, n) を 1 つ求めればよいから

$$(m, n) = (2, 2)$$

(2) 正の整数 $l = 2, 3, \dots, m-1$ について

$$\begin{aligned} {}_{m+n}C_{l+1} - {}_{m+n}C_l &= \frac{(m+n)!}{(l+1)!(m+n-l-1)!} - {}_{m+n}C_m \\ &= \frac{m+n-l}{l+1} \cdot {}_{m+n}C_m - {}_{m+n}C_m \\ &= \frac{m+n-2l-1}{l+1} \cdot {}_{m+n}C_m \\ &= \frac{n-m+2(m-1-l)+1}{l+1} \cdot {}_{m+n}C_m > 0 \end{aligned}$$

ゆえに ${}_{m+n}C_2 < {}_{m+n}C_3 < \dots < {}_{m+n}C_{m-1} < {}_{m+n}C_m$

したがって、 $2 \leq m \leq n$ を満たす整数 m, n について次式が成立する。

$${}_{m+n}C_m - {}_{m+n}C_2 \geq 0 \quad (*)$$

ただし、上式について等号が成立するとき、 $m = 2$ である。

$$f(m, n) = {}_{m+n}C_m - {}_{m+n}C_2 + {}_{m+n}C_2 - mn - 2$$

とすると、 $2 \leq m \leq n$ であるから

$$\begin{aligned} {}_{m+n}C_2 - mn - 2 &= \frac{1}{2}(m+n)(m+n-1) - mn - 2 \\ &= \frac{1}{2}(m+1)(m-2) + \frac{1}{2}(n+1)(n-2) \geq 0 \quad (**) \end{aligned}$$

が成立する。ただし、等号が成立するとき、 $m = n = 2$ である。

(*), (**) から、 $f(m, n) = 0$ となるのは、(1) の結果に限る。

別解 1 (1) で $1 \leq m \leq 2$ のとき, $(m, n) = (2, 2)$ がただ 1 つの解である.

$m \geq 3$ のとき, (m, n) の解が存在しないことを示せばよい.

$$m \geq 3 \text{ のとき} \quad {}_{m+n}C_2 < {}_{m+n}C_3 < \cdots < {}_{m+n}C_m$$

$$\text{また} \quad {}_{m+n}C_2 - (mn + 2) = \frac{1}{2}\{n(n-1) + m(m-1) - 4\}$$

$$n \geq m \geq 3 \text{ より} \quad n(n-1) \geq m(m-1) \geq 3 \cdot 2 > 4$$

$$\text{よって} \quad {}_{m+n}C_2 > mn + 2$$

別解 2 与えられた等式から

$$g(m, n) = \frac{{}_{m+n}C_m}{mn + 2} = \frac{(m+n)!}{m!n!(mn+2)}$$

とおく. (1) の結果から $g(m, n) = 1$ を満たす整数 m, n ($2 \leq m \leq n$) を求めればよい.

$$\begin{aligned} \frac{g(m, n+1)}{g(m, n)} - 1 &= \frac{(m+n+1)(mn+2)}{(n+1)(mn+m+2)} - 1 \\ &= \frac{\{(n+1)+m\}(mn+2)}{(n+1)\{(mn+2)+m\}} - 1 \\ &= \frac{m(mn+2) - m(n+1)}{(n+1)\{(mn+2)+m\}} \\ &= \frac{m\{(m-1)n+1\}}{(n+1)\{(mn+2)+m\}} > 0 \end{aligned}$$

$g(m, n+1) > g(m, n)$ であるから, m を固定すると, $g(m, n)$ は n について単調増加. また, $g(m, n)$ は m, n の対称式であるから, 同様に n を固定すると, $g(m, n)$ は m について単調増加. したがって

$$g(m, n) \geq g(2, 2) = 1$$

が成立する. ただし, 等号が成立するとき, $m = n = 2$ である.

よって, 求める正の整数の組 (m, n) は (1) の結果に限る. ■